

<ルワンダの公共交通機関！イモドカ（バス）>

熊あゆみレポート 3

Muraho!（こんにちは。）

今回は、ルワンダで最も利用されている交通機関、「イモドカ（バス）」について、お話したいと思います。

～日本と似てる？ICカード～

私は赴任まで公用語ある「キニヤルワンダ語」習得のために、首都キガリでホームステイをしながら訓練を受けました。

訓練先までは歩くと2時間かかるので、路線バスを利用します。

停留所は日本と同じようにありますが、大きなバスターミナルには多くのバスが狭い間隔で並んでいて、通勤時間帯は人もごった返しています。

乗車するには、日本のSuicaのようなICカードが必ず必要です。現金支払いはできません。

大きなバスターミナルで、ベストを着たお兄さんたちに機械を使ってお金をチャージしてもらいます。

～出発はいつ？～

私が一番驚いたのは、バスの時間が決まっていないことと、停留所に名前が書いていないこと。

時間が決まっていない、というのも、バスは人がいっぱい乗らないと発車しません。運転手にもよりますが、朝には満席はもちろんのこと、大抵立っている人もぎゅうぎゅうな状態でやっと出発します。空いているバスに乗ってしまうと数十分待つこともあります。

私も乗り換えの時間を考慮して、車で30分のところを、2時間前の朝6時に家を出ていました。2時間歩くか、2時間バスを待つか…。

考えてみれば、1回分のガソリンでより多くの人を運べるこの方法は、バス会社から見れば効率がいいと言えます。

また、停留所には名前が書いてありません。バス停である標識やベンチがあるだけです。でも、周りの乗客はほとんど名前や場所を覚えています。私が行き先を訪ねると、誰でもYesかNoと答えが返ってきます。

降りるときもボタンはありません。停留所が近づいたら手すりや窓をコンコンと叩いて、運転手に降りることを知らせます。

～3人席は4人席～

朝のバスは忙しい人でいっぱい、とても怖いんじゃないかと思うかもしれませんが、みんなは譲り合いの精神でいっぱい。

基本、3人席には詰めて4人座ります。ときには座っていた私が席からずり落ちるくらい、ぎゅうぎゅうでも座ってしまいます。なので、毎朝隣の人体温を感じながらの通学でした。

また、高齢の方や赤ちゃんをおんぶしたお母さんには席を譲ります。私が見た中では100%。中には、後から乗ってきた他のお母さんの子どもを膝に乗せている女性や荷物を預かる人もいます。

主な交通機関ということもあって、布団や大量の果物に野菜、聞いた話では鶏が乗っていることも。

混んでいてもみんな場所を分け合う、こんなバスに乗ったら、もっと新しいルワンダが見えてくるかもしれません。

(写真)



路線バスの形は日本と似ています。



首都の道はこんなにきれいです。毎朝掃除をする方がいるので、ごみもありません。